

「第2回地域福祉フェスタ in くまげ」

◎お問い合わせ先 熊毛支庁保健福祉環境部地域保健福祉課 ☎ ② 1138

福祉関係施設・団体と行政が連携し、「地域福祉フェスタ in くまげ」を開催します。

当フェスタは参加施設の「私たちの日々の取組をもっともっとみんなへ知ってもらいたい！」そんな思いからスタートしたイベントです。

昨年の第1回目の開催では、多くの方にご来場いただき、参加団体の様々な活動内容を知っていただくことができました。今回は中種子町の中央体育館に会場場所を移し、福祉現場の取組がよくわかる取組事例紹介や展示、福祉作業所で作成し

た製品の物販など、より一層、福祉の魅力を知っていただけるような内容を予定しております。

是非皆様、お誘い合わせの上ご来場下さい。

■日時

2月11日(火) 午前10時～午後3時30分

■会場

種子島中央体育館

■入場料

無料



地域おこし協力隊通信 (No.38)

幻想、馬立の岩屋のワンコ

伝説が謎だらけの馬立の岩屋が好きである。1462年、種子島家第10代幡時が58歳の時に修行に入ったこの洞窟で忽然と消えてしまった。その帰りを待つ馬だけが立っていたため、その洞窟は「馬立の岩屋」と呼ばれる。また、この地を犬城というのは、岩屋で幡時が修行していた「犬神使い」が語源らしい。

さて、幡時は第8代清時の三男なので島主の座に就く機会は少ないはずだが、長男三郎は家を継ぐ器ではないと17歳で馬毛島で殺害され、二男時長は9代を継ぐものの36歳で亡くなってしまい、彼には跡取りがいなかったため、三男の幡時が10代を継いだ。

種子島家は、もともと熊野権現を崇拝し、特に幡時は厚い信仰を寄せていたという。彼は航海術にも長けていたこともあってか毎年、参拝に訪れていた。はまりすぎた幡時は1452年に熊野権現社を建立する。このご神体である石は熊野よりにいただいたワケミタマを祀ったもの。驚くことにこの石は、年々成長を続けているといわれている。



馬立の岩屋

(山村)